

第25回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ東京2015） 実施報告書

実行委員長	森田 光一
レース委員長	高橋 祐司
レース副委員長	中川 二朗

はじめに

第25回ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ東京2015）は、9月6日（日）に、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所及び若洲沖で、外務省、文部科学省、東京都、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と、三起商工株式会社（ミキハウス）の特別協賛及び大塚製菓株式会社の協賛を頂いて、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下JYUという）と東京都ヨット連盟との共同主催にて開催されました。

当日は、台風17・18号が日本列島に接近する影響を受け、高気圧が発達傾向にあり、弱い風の中の大会になりました。昨年に引き続きOP級のみではなく、レーザー4.7の参加も募集しました。参加艇数は、OP級上級者28艇、OP級初級者31艇、レーザー4.7が3艇のエントリーでした。直前の怪我のためレーザー4.7の1艇がレースには不参加でしたが、合計で62艇でした。指導者・保護者に運営役員その他に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者の体験試乗会に子供が21名、保護者等の帯同者が28名計49名の参加で総勢200名以上となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

7時30分から受付が開始され、参加資格の確認やパンフレット・帆走指示書等の配布とスムーズに準備が出来ました。その後、持込み艇のバースへの誘導、レンタル艇の引渡し等々の業務が順次行われ、サポートボートの受付も2艇あり、大会運営に協力いただいたことに感謝申し上げます。

開会式

8時30分、主催者を代表して佐藤精知夫副会長から選手に向けて挨拶がありました。

「この大会は、25回目を迎えましたが、これまでに世界で活躍する選手を沢山輩出し、我が国のヨット界・スポーツ界にとって意義ある大会となっています。選手の皆さん、日頃の練習の成果を思う存分発揮することを願います。また、ご父兄・指導者にもお礼を申し上げます。」

次に三起商工株式会社（ミキハウス）執行役員総務部長の光川彰夫様からご挨拶を頂きました。

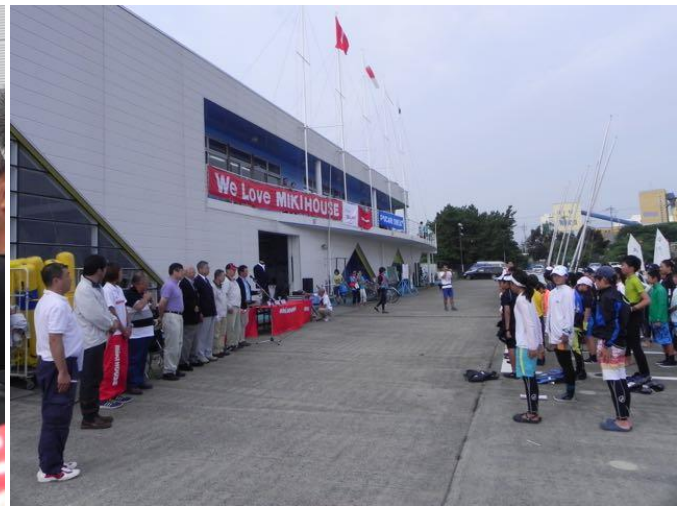
「この大会の中から夢を持って世界のステージで活躍する選手が出ることを確信しています。沢山の出会いと感動を、そして未来へと続く夢を見つけてください。」

また、ミキハウス所属の須長由季オリンピック・ナショナルチーム選手から「夢を追い続けてください。夢は必ず叶います。」との激励のメッセージを頂きました。

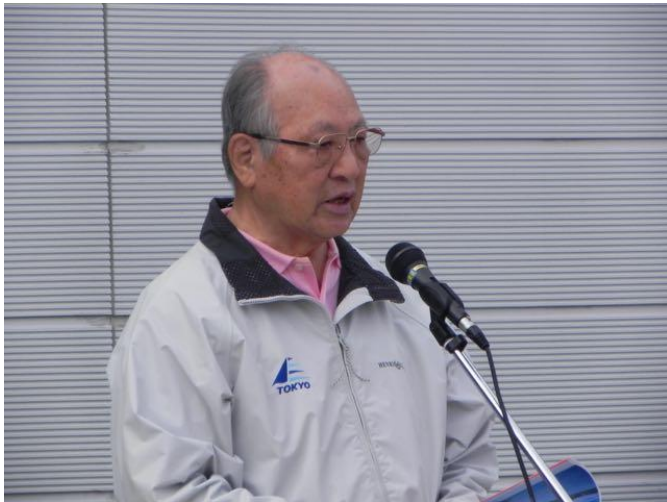
開会式終了後、A海面グループとB海面グループに別れてスキップーズミーティングを10分ほど行いました。A海面は、大気が不安定で突発的に天候が悪化する場合があるので、N・A/H旗を確認したら、直ぐにこの訓練所に向かわてください。また、季節の変わり目ですから、着る物に注意してくださいとの説明をしました。B海面は、昨年同様に予選・決勝方式で行うことと、レースの進行について説明をしました。参加選手の中には、今年セーリングを始めた選手も多く、初めて公式レースに参加した選手も数多く見受けられ、特にスタート時の注意事項を念入りに説明しました。参加選手は31名であったので、予選は3ディビジョンに分けて色別の識別リボン付けてもらいました。



運営ミーティング



若洲海浜公園ヨット訓練所前での開会式



JJYU 佐藤副会長ご挨拶



ミキハウス所属須長選手の激励



B 海面スキッパーズミーティング



A 海面スキッパーズミーティング



ブレザー、カップは誰の手に？

レース

[A海面：若洲沖三枚洲付近]

OP 級初級者のレースをポンド内で行なう関係上、A海面の出艇を9時20分、早めに合図しました。海上は、弱い風速ながらも全艇が沖へ向かいました。レース海面付近の状況は、風向が南東で風速がAverage2 ノット、潮流は、小潮で昼過ぎまで弱いながらも満ち潮でした。この時期の若洲の傾向として朝方から午前中の11時までの、気温が上昇する前に東寄りの風があり、その風をつかみ最初のレースをしようという狙いで出艇させましたが、太平洋側の高気圧が思いのほか発達し、西日本からの低気圧が近畿地方で停滞していました。その結果、海上の気温が予想以上に早く上昇してきました。風速がAverage2 ノットを下回っていたため、やむなく第1レースのスタート予告信号予定時刻の9時55分に回答旗をレース委員会信号艇に掲揚し、風待ちとしました。その後、東京湾全域の風と気象衛星画像を常時チェックしながら、風のシフトに合わせてコース設定を何度も試みましたが、気温の上昇とともに風速が弱くなり、風軸を読み取ることが難しい状況になりましたが午後1時過ぎによりやくスタートできる状況になりました。

天候晴れ、風向130°、風速4.0 ノット、距離500m強で上下ソーセージコースを設定し、OP 級上級者クラスの第1レースを13時20分にスタートさせました。

レーザ4.7クラスは第1レースを13時42分にスタートさせました。

両クラスとも、先頭艇が第1上マーク回航後、風速が落ち、止む得なく第1下マーク手前でコース短縮としました。

13時35分以降にスタート予告信号を発せられないため、1レースのみで大会は終了しました。



大会受付、陸上本部



運営泣かせの微風だったA海面



風待ちの選手たち（A海面）



〔B海面：訓練所前ポンド内〕

第1レースを10時にスタートさせるべく、運営艇は9時30分に出航し準備を進めたものの、風弱く風向も安定しないために、選手の出艇は見合わせることにしました。A海面の風情報を頻繁に入手しながら、風向が 80° 、 2m/s と安定してきたため、10時45分に第1レースをスタートさせました。第3レースから風向が不安定となり、第4レースになって漸く 120° に安定してきましたが、依然として風速が弱く、予選6レースを終了したのは、13時55分となりました。

帆走指示書で、14時5分以降に予告信号を発しない規定があるため、陸上にて参加チームのコーチ・責任者に集ってもらい、14時5分以降にもレースを続行したい旨をお願いして、全チームの了解を得て、決勝レースを行いました。

決勝戦は、予選の成績から第1レースは予選9、10、11位の選手10名、決勝戦第2レースは予選5、6、7、8位の12名に決勝戦第1レースの上位3名を加えて計15名、決勝戦第3レースは予選1、2、3、4位の12名に決勝戦第2レースの上位3名を加えて計15名で行い、その成績により順位を確定しました。

結果は別紙に示すとおり、夢の島ヨットクラブの重松陽さんが優勝しました。特筆すべきは、決勝戦第2レースから勝ち上がってきた茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブの加藤菜々海さんが3位に入賞したことでした。

今回、B海面のレース終了が大幅に遅れ、関係各位にご迷惑をお掛けしたことにしてお詫びするとともに、今後の運営方法の改善を図りたいと思います。

本方式は課題もありますが、限られた海面・時間の中で、選手も楽しめる方法であり、今後、固定できる事項は帆走指示書に掲載できるようにすべきかと考えます。



決勝レースの運営艇（B海面）



B海面決勝レースのスタート



トップ回航（B海面）



B海面決勝レース上サイドのデッドヒート



B海面下～フィニッシュのデッドヒート

在日外国人の体験試乗会

昨年は台風接近のニュースで当日朝になって不参加の連絡があつて実現出来ませんでしたが、今年は好天に恵まれて、江東区のケイ・インターナショナルスクールの小学生21名と保護者、幼児28名の計49名に参加して頂き、デイクルーザー2艇に交代で分乗し、弱い風の中でもセーリングを楽しんで頂きました。お昼の弁当を食べたらもう一度乗りたいという希望が多く、子供達だけとか好きな家族同士で乗って楽しんで頂くことが出来ました。この中から、ヨットに乗る子供たちが出て来るのが楽しみです。



体験試乗会に参加のケイ・インターナショナルスクールの皆さん

成績

OP 級上級者クラス

- 第1位 青山 知央 (葉山町セーリング協会)
- 第2位 重松 駿 (夢の島ヨットクラブ)
- 第3位 後藤 凜子 (葉山町セーリング協会)

OP 級初級者クラス

- 第1位 重松 陽 (夢の島ヨットクラブ)
- 第2位 植田 瑞 (葉山町セーリング協会)

第3位 加藤 菜々海 (茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ)

レーザー4.7クラス

第1位 佐藤壮竜 (横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ)、

第2位 村野龍典 (横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ)

閉会式・親善パーティー

表彰式・閉会式・親善パーティーを16時に開始しました。心配された雨が少し降って来ましたがそのまま艇庫前で行いました。キッチンカーから各テーブルに順次温かい食事が出されて、まずは食べて、飲んで一息ついたところで表彰が始まりました。

高橋祐司レース委員長がクラス毎に成績を発表し、クラス毎に入賞者に賞状、メダル、ミキハウスの副賞の授与が行われ、皆さんでその栄誉を讃えました。

毎年参加して頂いている特別協賛会社ミキハウスの光川部長さんと須長選手から、OP級上級者優勝者の葉山町セーリング協会青山知央選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップとブレザー、OP級初級者優勝者の夢の島ヨットクラブの重松 陽選手にもクリスタルガラスのミキハウスカップが授与されました。

記念すべき第25回目の団体表彰としてのクラブ対抗レースは、昨年に続き葉山町セーリング協会が優勝の名誉に輝き、JJYU会長特別賞の海外セーリング研修参加資格が授与されました。

また、入賞できなかった選手たちだけによる恒例の「じゃんけん大会」によって、たくさんのミキハウスグッズが順番に贈られて、にぎやかなパーティーとなりました。

最期に高橋有樹プロテスト委員長からレース講評がありました。

「今回のレースは、風が弱くレース運営に苦慮したが、選手の皆さんはシーマンシップを守り、違反も抗議も0件で素晴らしい大会でした。」

夕刻の帰宅時には天候が更に悪化して帰り道も心配でしたが、レガッタは事故もなく無事に終了しました。



小雨ぱらつく中での親善パーティー



小雨ばらつく中での親善パーティー



閉会式司会の野村委員



高橋祐司レース委員長による成績発表



表彰



0P 級初級者優勝の重松陽くん（右から 1 番目）と上位入賞者



0P 級上級者優勝の青山知央さん（右から 1 番目）と上位入賞者



レーザー 4.7 優勝の佐藤壮竜くん（右）



クラブ対抗レース優勝の葉山町セーリング協会



高橋有樹プロテスト委員長のレース講評 じゃんけん大会

最後に

次年度以降の課題として、大会日程の調整をはかり自然条件の良い、ジュニア初心者の普及と上級者が求めるレベルの高い良いレースをするため、早い段階から準備、検討をしたいと思います。

例年、特別協賛いただいている三起商行株式会社（ミキハウス）様をはじめ、大塚製薬株式会社様等の後援・協力をいただいている各団体様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

以上